

2024年9月8日（聖霊降臨後第16主日、特定18、B年）

牧師メッセージ

「うめく神」

（マルコによる福音書7: 24-37）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音の後半、耳が聞こえず、口の利けない人をイエスは癒しました。その時、イエスは「天を仰いで呻(う)めき」ました。以前の翻訳では、「深く息をつき」と訳されていましたが、今回の翻訳でよりイエスの共苦、共感の側面と共に、全身で願うその姿が強調されたように感じられます。イエスはわたしたちの痛みや困難に無関心であるのではなく、呻めくほどに共に痛み、神にある癒しへと伴ってくださる方なのです。

今日の福音の前半。ティルスは地中海に面したフェニキアの町で、その住人はカナン人と呼ばれる異邦人でした。そのカナン人の女性が、娘を助けてほしいとイエスに願いました。けれども、イエスはその訴えにすぐには応じませんでした。むしろ、非常にショッキングな厳しい言葉で断りました。

イエスは「奇跡マシン」ではありません。ご利益としての奇跡も起こしません。神のご計画に従って、イエスは行動するからです。神の計画とは、弱く小さなイスラエルの民を選び、アブラハムと契約を結ぶことから始まりました。そして、取るに足らない弱き民族に救いが実現し、そこに神の栄光が輝くことで、異邦人たち誰もが神のすばらしさを知り、全世界が神の救いへと導かれる、というのが神の当初の計画でした。しかし残念ながら、イスラエルは神から幾度も離れてしまいました。それでも、すべての人を救う神の思いが失われることはありませんでした。神のご計画の実現のため、いよいよイエスが遣わされました。イエスは神のご計画のために自分が遣われたことをよく分かっていました。ご計画によれば、今はイスラエルに向けて救いが現される段階なのです。それゆえ、イエスは神のご計画に沿わない奇跡を行いません。「子どものパンを取って、小犬に投げてやるのはよくない」という強烈な言葉で、彼女の願いを拒否します。

しかし、イエスのこの言葉に深く同意したこの女性もまた、イエスと同じように、神の救いの計画に従う信仰を持っていたのです。それゆえ彼女は、自らを当時のイスラエルでは非常に侮辱を込められた「小犬」と認めつつ、「食卓から落ちるパン屑」を願いました。それならば、今、異邦人に与えられても神の計画を損なうことにはならないからです。この機知に溢れた女性の信仰をイエスは認め、彼女の娘は癒やされました。この女性のように、自らの都合ではなく、神の御心に従おうとするところに、神からの幸いが実現します。残念ながら、わたしたちは彼女のようにではなく、神の思いに開かれず、神に背き続けたイスラエルようになってしまうものです。しかしそんなわたしたちのためにイエスは呻き、「開け」と言って、神の思いへとわたしたちを開いてくださいます。そのイエスにこそ、聴き従ってまいりたいと願います。